

作況ニュース（号外）

水 稲
大 豆

（発行：令和7年8月15日）（編集：令和7年8月14日）

発行：秋田県農林水産部

水 稲

成熟期は早まる見込み！収穫作業の準備を！

- － 適切な水管理で玄米品質の確保 －
- － 斑点米カメムシ類の防除徹底 －

1 今後の気象の見通し

（1）東北地方1か月予報（8月16日～9月15日）【令和7年8月14日 仙台管区气象台発表】

向こう1か月の平均気温は高い確率80%です。また、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

【気 温】

■低い ■平年並 ■高い

[東北地方]



2 県内の概況

（1）7月の気象経過（旬の気象概況）

【秋田地方气象台】

7月中旬： この期間、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。旬平均気温は高く、全地点でかなり高い。旬降水量は少ない。旬間日照時間は多い。

7月下旬： この期間、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。旬平均気温は高く、全地点でかなり高い。旬降水量は少なく、全地点でかなり少ない。旬間日照時間は概ね多い。

8月上旬： この期間、前線や気圧の谷の影響により曇りや雨の日が多く、5日から8日にかけて大雨の所があったが、前半は高気圧に覆われて晴れの日もあった。旬平均気温は高い。旬降水量は多い。旬間日照時間は概ね平年並。

[7 月中旬]

	気温 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	降水量 (mm)	平年比 (%)	階級区分	日照時間 (h)	平年比 (%)	階級区分
鷹巣	26.2	+4.0	かなり高い	5.0	7	かなり少ない	84.7	179	かなり多い
秋田	27.7	+4.6	かなり高い	3.5	5	かなり少ない	88.7	192	かなり多い
横手	27.1	+4.0	かなり高い	6.0	10	かなり少ない	84.0	192	かなり多い

[7 月下旬]

	気温 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	降水量 (mm)	平年比 (%)	階級区分	日照時間 (h)	平年比 (%)	階級区分
鷹巣	27.7	+3.7	かなり高い	2.0	3	かなり少ない	84.3	151	多い
秋田	28.3	+3.3	かなり高い	0.0	0	かなり少ない	90.9	158	多い
横手	28.1	+3.2	かなり高い	0.0	0	かなり少ない	100.3	169	多い

[8 月上旬]

	気温 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	降水量 (mm)	平年比 (%)	階級区分	日照時間 (h)	平年比 (%)	階級区分
鷹巣	26.1	+1.7	高い	192.5	285	かなり多い	57.8	95	平年並
秋田	27.4	+1.7	高い	169.0	363	かなり多い	69.5	110	平年並
横手	27.1	+1.6	高い	116.0	209	多い	62.4	101	平年並

(2) 本田の生育

1) 全県の出穂状況

各地域振興局による調査では、全県の出穂期は7月31日（平年差－2日）であった。
地区別の出穂期は、県北が7月30日、中央と県南が7月31日であった。

注：全茎数の40～50%が出穂したほ場の割合が50%に達した日を、各地域の出穂期とする。

2) 定点調査ほの出穂状況

定点調査ほ（移植栽培）の出穂期は、あきたこまちが7月28日（平年差－4日）、
ひとめぼれが7月31日（同－2日）であった。

3) 農試・気象感応試験の生育概況（あきたこまち）

標植では、減数分裂期が7月18日（平年差－5日）、出穂期は7月25日（同－6日）
となり、同ほ場で試験を開始した平成12年以来、令和5年と同様に最も早い出穂期と
なった。また、晩植の出穂期は7月29日（平年差－5日）となり、これも試験開始以
来、最も早い出穂期だった。

両区とも幼穂形成期は平年より3日早かったことに加え、7月後半の高温多照によ
り、さらに生育が進んだ。

表－1 気象感応試験の生育ステージ

試験区	移植日基準	幼穂形成期			減数分裂期			出穂期		
		R7	R6	平年	R7	R6	平年	R7	R6	平年
標植	5/15 (平年差)	7/7 (-3)	7/6	7/10	7/18 (-5)	7/18	7/23	7/25 (-6)	7/25	7/31
晩植	5/25 (平年差)	7/11 (-3)	7/11	7/14	7/22 (-5)	7/23	7/27	7/29 (-5)	7/30	8/3

注1：中苗移植、平年は標植ではH12～R6、晩植ではH29～R6の平均。

注2：本年移植日 標植 5/15、晩植 5/26

(3) 病害虫の発生概況

1) 葉いもち

8月1半旬の巡回調査(80地点)における葉いもち及び穂いもちの主な伝染源となる上位2葉の葉いもちの発病株率、同地点率は、いずれも平年並だった。

地域別では、県北の発病株率が6.3%(平年4.0%)でやや高く、同地点率は43.5%(平年23.4%)で高かった。また、県北の上位2葉の発病株率は3.5%(平年1.1%)、同地点率は21.7%(平年11.5%)でいずれも高く、過去10年の中で最も高かった。

(令和7年8月7日発表 農作物病害虫防除対策情報 第9号を参照)

2) 斑点米カメムシ類

8月1半旬の巡回調査(80地点)における水田内での斑点米カメムシ類のすくい取り数(20回振り)は2.0頭(平年3.6頭)でやや少ない、発生地点率は40.0%(平年50.2%)でやや低かった。

同調査における水田内雑草の発生状況別の水田内での斑点米カメムシ類のすくい取り数は、ノビエやカヤツリグサ科雑草が多く発生しているほ場で多い傾向にあり、ほ場間差が大きかった。

予察灯調査(6地点)における7月1半旬から6半旬までの総誘殺数はアカスジカスミカメが835頭(平年207.3頭)で多く、アカヒゲホソミドリカスミカメが970頭(平年1025.5頭)で平年並だった。

(令和7年8月7日発表 農作物病害虫防除対策情報 第10号を参照)

3 当面の技術対策(8月中旬～9月上旬)

6月下旬以降の高温と7月以降の多照により、全県で出穂が平年より早まった。8月2半旬は雨天により、高温はやや落ち着いたものの、今後1か月は高温の見通しであるため、稲の活力を維持し、登熟の向上を図るための水管理を徹底する。登熟期間後半は、フェーン現象等の乾燥した風の強い日に特に注意し、土壌水分を適正に維持して品質低下の防止に努める。

また、出穂が早まったことやその後の高温により、稲の成熟期は平年より早まることが高い確率で予測されるため、刈り遅れによる品質低下を招かぬよう、収穫作業の準備を早めに行う。

また、斑点米カメムシ類の防除も稲の生育に遅れないよう、適期に実施する。

(1) 水管理の徹底

登熟期間後半の水管理は、間断かん水を基本とし、徐々に落水期間を長くする。落水は出穂後30日を目安とするが、ほ場条件や田面の硬化程度により30日を超えてかん水できるほ場は、落水を遅らせて登熟向上を図る。

気温が30℃以上になる場合は、用水の確保が可能であれば、かけ流しかん水を行い地温を下げ、根の機能減退を防止する。かけ流しかん水が困難な地域では、落水期間の短い間断かん水や午前にかん水するなど、水分供給と地温の低下に努める。

水不足等で用水の確保が難しい場合は、溝切り跡への通水等により、土壌水分を補

充し、夜間の地温低下を図る。

フェーン現象等で乾燥した風の強い日は、湛水状態を保ち、蒸散による稲体の水分消耗を軽減する。特に出穂後30日以降においても、用水の確保が可能な場合は、かん水し急激な枯れ上がりを防止する。

なお、カドミウム含有米の発生が懸念される地域で、「あきたこまちR」以外の品種では出穂後3週間は、常時、湛水管理を徹底する。

(2) 適期刈り取りの目安

出穂期後の日平均気温の積算による刈り取り適期の目安は、あきたこまち等の早生種では950～1,050℃、ひとめぼれ、めんこいな、ゆめおぼこ等の中生～晩生種は1,050～1,150℃である。本年は平年を上回る気温が続き、積算温度は速いペースで増加していることから、刈り取り適期は早まる見通しである。各地域の水稻定点調査ほの出穂期とアメダス観測データの積算気温から予測した地域別の刈り取り適期の目安を表－2に記載した。

最終的な刈り取り適期は、各ほ場毎に籾の黄化程度を確認し、黄化程度が90%に達した時点とする。

刈り遅れによる大きな影響は、胴割れ米の発生である。あきたこまち等の早生品種では、積算気温1,100℃を超えると発生割合が増加し、特に本年のような高温年は発生しやすい。また高温登熟年の場合、白未熟粒の混入は、刈り遅れるほど多くなることが令和5年において明らかだったことに留意する。

表－2 積算気温による刈り取り適期の目安(あきたこまち)

アメダス 観測地点	水稻定点 平均出穂 期 R7	出穂期翌日から積算日平均気温950℃到達				出穂期翌日から積算日平均気温1050℃到達			
		8/14以降の気温が 平年並の場合		8/14以降の気温が 平年より2℃高い場合		8/14以降の気温が 平年並の場合		8/14以降の気温が 平年より2℃高い場合	
		日数	目安月日	日数	目安月日	日数	目安月日	日数	目安月日
鹿角	7月28日	41	9月7日	39	9月5日	46	9月12日	44	9月10日
大館	7月27日	39	9月4日	37	9月2日	44	9月9日	42	9月7日
鷹巣	7月27日	39	9月4日	37	9月2日	44	9月9日	42	9月7日
能代	7月29日	39	9月6日	37	9月4日	43	9月10日	41	9月8日
大潟	7月27日	38	9月3日	37	9月2日	43	9月8日	41	9月6日
秋田	7月27日	37	9月2日	36	9月1日	41	9月6日	40	9月5日
大正寺	7月27日	40	9月5日	38	9月3日	45	9月10日	42	9月7日
本荘	7月30日	39	9月7日	37	9月5日	44	9月12日	41	9月9日
大曲	7月28日	39	9月5日	37	9月3日	43	9月9日	41	9月7日
角館	7月28日	39	9月5日	37	9月3日	44	9月10日	41	9月7日
横手	7月30日	38	9月6日	37	9月5日	43	9月11日	41	9月9日
湯沢	7月29日	39	9月6日	37	9月4日	44	9月11日	42	9月9日

(3) 作業計画

作付品種の熟期と栽培面積を考慮し、刈り遅れにならないよう乾燥・調製能力に合わせた作業計画を立てる。

また、カントリーエレベーターやライスセンターにおいては、登熟の状況を考慮し、刈り遅れにならないよう作業計画を組む。

(4) いもち病（穂いもち）防除

- 1) 葉いもちが多発しているほ場では、穂揃期にトライフロアブル又はラブサイド剤の茎葉散布を行う。上記に加え傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行う。出穂前にコラトップ剤などの粒剤や水面施用剤を散布したほ場でも、同様に葉いもちが多発している場合は、傾穂期にラブサイド剤による追加防除を行う。
- 2) 本田での防除薬剤の使用回数は、トライ剤は2回、ラブサイド剤は3回以内となっているので注意する。

(5) 斑点米カメムシ類防除

- 1) 1回目の防除として、出穂期10日後頃にアルバリン/スタークル剤を畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布する。
- 2) 1)の散布当日から7日後までに畦畔や農道の除草を必ず行い、斑点米カメムシ類の増殖源となるイネ科雑草を除去する。
- 3) 水田内に出穂したホタルイなどのカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場、斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科植物が主体の牧草地や休耕田などに隣接しているほ場では、出穂期10日後頃の薬剤防除に加えて同24日後頃にもエクシード剤又はキラップ剤を茎葉散布する。なお、本年は収穫時期が早まると見込まれるため、薬剤の使用時期（収穫前日数）には特に注意する。

大豆

適期の病害虫防除を徹底

－ ほ場を観察して病害虫の適期防除 －

（紫斑病の適期防除とホソヘリカメムシの発生に注意）

1 生育概況（開花の状況：各地域振興局調べ）

全県の大豆の開花期は7月28日（平年差－2日）と平年に比べ2日早かった。

また、地区別の開花期は、県北が7月30日（平年差－2日）、中央が7月26日（同－1日）、県南が7月28日（同－2日）であった。

2 当面の技術対策（8月中旬～下旬）

（1）病害虫防除

今後の気象に注意し、ほ場の観察による病害虫の早期発見、防除に努める（防除基準p. 51～58参照）。

1）吸実性カメムシ類

秋田市予察ほのホソヘリカメムシフェロモントラップにおける7月1半旬から8月1半旬までの成虫の誘殺数は56頭（平年18.1頭）で多く、過去12年と比較して最も多かった。

大豆巡回調査におけるカメムシ類による子実被害は、近年、増加傾向にあるため、8月中旬～9月上旬に1～2回薬剤防除を行う。

（令和7年8月7日発表 農作物病害虫防除対策情報 第11号を参照）

2）紫斑病

本年の紫斑病の感染時期はやや早く、感染量が多いと予想されている。本年の大豆の開花期は全県平均で7月28日と平年に比べ2日早かったが、紫斑病の防除適期は開花期20～30日後であるため、防除時期を逸しないよう注意する。また、着莢期に降雨が多い場合は、1回目防除の約10日後に追加防除を行う。

開花期の早いほ場では、マメシンクイガ（8月下旬～9月上旬）との同時防除は、防除時期が合わない場合があるため注意する。

各地域における技術情報等のお知らせ

各地域における技術情報等についての問い合わせは、最寄りの地域振興局農林部農業振興普及課に電話またはFAXをお願いします。

各地域振興局	電話番号	FAX番号
鹿 角 地域振興局農林部農業振興普及課	0186-23-3683	0186-23-7069
北秋田 地域振興局農林部農業振興普及課	0186-62-1835	0186-63-0705
山 本 地域振興局農林部農業振興普及課	0185-52-1241	0185-54-8001
秋 田 地域振興局農林部農業振興普及課	018-860-3410	018-860-3363
由 利 地域振興局農林部農業振興普及課	0184-22-8354	0184-22-6974
仙 北 地域振興局農林部農業振興普及課	0187-63-6110	0187-63-6104
平 鹿 地域振興局農林部農業振興普及課	0182-32-1805	0182-33-2352
雄 勝 地域振興局農林部農業振興普及課	0183-73-5114	0183-72-6897

OSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）LINEで情報発信を行っています

秋田県稲作技術情報

「秋田の米ぢから」



水稻栽培に関する情報をリアルタイムで発信しています。

＜主な配信内容＞

- ・ 秋田県内の水稻の生育状況
- ・ 水稻および大豆の技術情報
- ・ 異常気象対策
- ・ その他、秋田米に関する情報



こちらのQRコードから
登録できます

記事についてのお問い合わせは

秋田県農業試験場 作物部、生産環境部

秋田県病虫害防除所

秋田地方気象台

東北農政局秋田県拠点

秋田県農林水産部水田総合利用課（農産・複合推進チーム）

園芸振興課（調整・普及チーム）

TEL 018-881-3330

TEL 018-881-3660

TEL 018-864-3955

TEL 018-895-7303

TEL 018-860-1786

TEL 018-860-1801

【次回の発行日は8月25日（月）の予定です】